

AI-OCRで 紙の情報を業務の力に

AIが書類を正確にデータ化し
業務効率と生産性を向上します

AI-OCR 処理結果

請求書

請求書番号	INV-2024-00123
請求日	2024/05/20
取引先	株式会社〇〇〇〇
合計金額	¥128,700

請求書

¥128,700

領収書

¥128,700-

上記正に領収いたしました
2024/05/20 株式会社〇〇〇〇

請求書

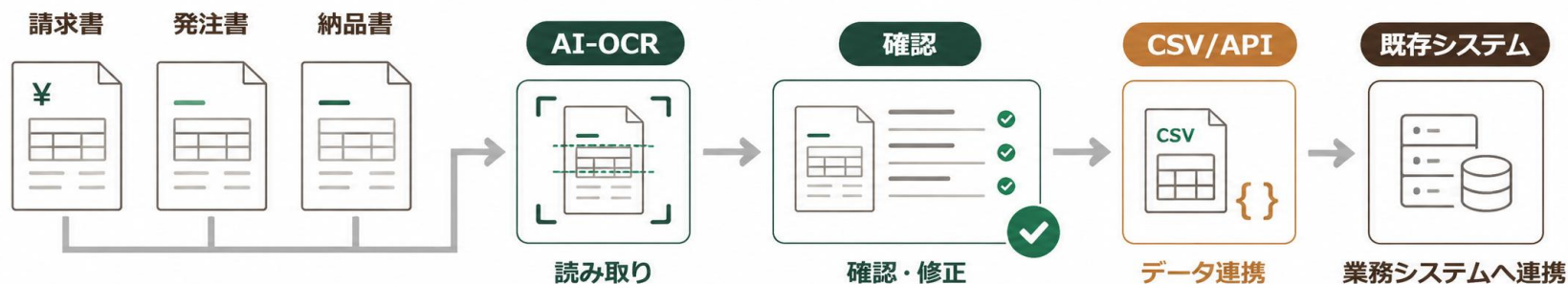
¥128,700



RESONANCE
PARTNERS

AI-OCR 導入検討資料

請求書・発注書・納品書をAI-OCRで読み取り、確認後のデータをCSV/APIで既存システムへ連携するための検討資料です。



この資料で確認できること

対象業務	向いている業務の見極め
対応範囲	標準 / 要件確認 / 個別対応
連携方法	CSV / API / 既存IF
事前準備事項	帳票サンプル / 抽出項目 / 連携先



まず見極めたい適用範囲

まずは、自社業務に当てはまるかを確認します。

向いている業務

- ・月間件数が多く、単純転記の比率が高い
- ・帳票種類はあるが、対象を整理できる
- ・入力後に人の確認を残したい
- ・既存システムへの再入力が残っている

読み取り後に人が確認し、確認済みデータを既存システムへ連携する業務が対象です。

帳票単位で確認したいケース

- ・自由記述や走り書きが中心
- ・帳票レイアウトの差が大きい
- ・明細や例外処理のルールが複雑
- ・無確認での自動投入が必須

高精度や複雑な例外処理は、帳票単位で確認します。

まず確認したい5項目

この5項目を確認すると、対象範囲を切り分けやすくなります。

月間件数

帳票種類

手書き比率

明細の複雑さ

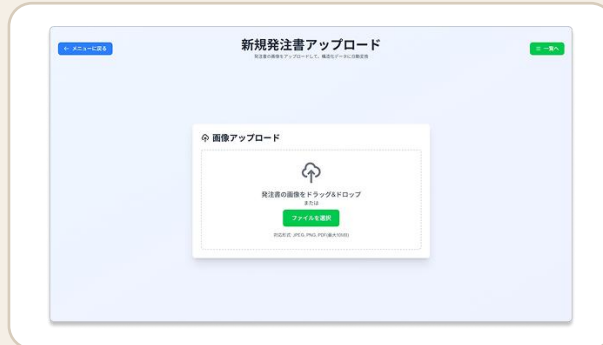
連携先システム

現場では誰が何を確認するか

受付・確認・配信の流れで、役割分担を整理しています。

Step.1

受付・取り込み



主な担当：現場・事務
ポイント：画像向き・鮮明さ・帳票種別
出力：読み取り開始

Step.2

確認・補正



主な担当：経理・受発注担当
ポイント：項目差分・明細・手書き欄
出力：確認済みデータ

Step.3

配信・反映



主な担当：業務担当・情報システム
ポイント：CSV・API・反映エラー
出力：基幹・周辺システムへ連携

人が確認する位置を先に決めると、確認フローと連携タイミングを整理できます。

対応範囲は3区分で示す

標準対応・要件確認・個別対応の3区分で、帳票ごとの対応方針を整理します。

標準対応

そのまま使える範囲

アップロード

確認・修正

読取設定

CSV出力

- ・画像アップロード
- ・確認画面での修正
- ・帳票ごとの読み取り設定
- ・CSV出力

要件確認

帳票条件を見て判断

手書き

明細量

帳票差分

精度要件

- ・手書き比率が高い帳票
- ・複数ページ / 明細が多い帳票
- ・取引先ごとの差分が大きい
- ・必須項目の精度要件

個別対応

連携・変換を設計

項目変換

形式合わせ

API

運用設定

- ・項目名 / 日付形式の変換
- ・既存フォーマットへの合わせ込み
- ・API / レガシー連携
- ・業務運用に合わせた設定

帳票ごとに対応区分を先に分けると、対応範囲を判断しやすくなります。

既存システム連携は「読む」より「揃える」が中心

連携前に、項目名・形式・出力方式を揃えます。

システムの流れ



揃える 3 つの観点

01

項目名を揃える

取引先ごとの名称差分を吸収

02

形式を揃える

日付・数量・コード体系を合わせる

03

方式を決める

CSV／APIと反映先

連携では、接続先だけでなく、出力する項目名と形式を先に揃えます。

効果は「削減時間」だけでなく、確認と連携まで分解して見る

総工数は、工程別に比較します。

試算は「工数・品質・連携」の3軸で見ます。

分解軸	導入前 (Before)	導入後 (After)
工数	月間件数 × 手入力時間	確認時間 + 例外処理時間
品質	修正件数 / 差し戻し	認識差分 / 再入力率
連携	転記回数 / システム数	自動連携率 / 反映エラー

試算に必要な前提

- ・月間件数
- ・帳票種類
- ・1件あたりの入力時間
- ・繁忙時の集中度
- ・連携先システム数

試算のポイント

自動化率より、残す確認を先に決めます。

導入までの進め方

お問い合わせ後は、ヒアリングから本番化まで段階的に進めます。



各STEPで決まる項目

対象帳票 対象帳票・優先順位	読み取り項目 抽出項目・必須項目	連携方式 CSV / API / 連携先	確認方法 確認担当・確認箇所	運用体制 稼働後の対応範囲
--------------------------	----------------------------	--------------------------------	--------------------------	-------------------------

帳票条件に応じて、進め方と期間を調整します。

導入事例

請求書データをAI-OCRで読み取り、確認後にCSVでSAP FI-APへ連携

対象帳票

請求書データ

処理内容

01 AI-OCRで読み取り

02 補正画面で確認

03 CSV出力

連携先

SAP FI-AP

CSV取込

補正画面イメージ

The screenshot displays the '請求書補正画面' (Invoice Correction Screen) with the following details:

- File Information:** ファイル名 (File Name), アップロード日時 2026-04-27 14:29:40, 構造化処理 (Structured Processing) status: 完了 (Completed).
- File Viewer:** ファイルビューワー (File Viewer) showing a preview of the invoice document.
- Structured Results (構造化結果):** Includes basic information (基本情報) and detailed information (明細情報).
- Basic Information (基本情報):** 請求先 (得意先名) (Customer Name), 税抜金額 (Tax-excluded Amount) example: 1,234,567, 消費税等 (Consumption Tax etc.), 税込金額 (Tax-included Amount).
- Detailed Information (明細情報):** Table with 20 items (明細 20 件).

No	出荷日	伝票番号	注文番号	区分	品番
1					
2					
3					

AI-OCRで読み取り → 確認 → CSV出力 → SAP FI-AP取込

選ばれる理由

読み取り設定に加え、確認手順と連携方法まで設計する。

01 帳票差分を整理し、読み取り条件を調整する

取引先ごとの差分、手書き欄、独自用語を整理し、対象帳票ごとに読み取り条件を設定します。



対応例： 帳票差分・手書き欄・独自用語の整理

02 既存システムに合わせて出力形式を整える

基幹・レガシーを含む既存環境に対し、CSV/APIの出力形式を既存IFに合わせ、現行システムへ接続します。



接続例： CSV整形・項目名統一・既存IFへの合わせ込み

03 テスト運用で差分を確認し、設定見直しまで対応する

実書類で差分を確認し、確認フローを決めて本番化します。

稼働後も帳票追加や設定見直しに対応します。



運用例： テスト運用・差分修正・稼働後の設定見直し

確認手順と連携方法を整理し、本番運用まで対応します。

支援体制

初回相談から本番後まで支援します。

各工程での支援内容

1



STEP 1 業務理解

整理事項

対象帳票

業務課題

既存システム

2



STEP 2 要件整理・仕様化

決定事項

読み取り項目

連携仕様

対応範囲

3



STEP 3 構築

構築内容

読み取り設定

カスタマイズ

連携実装

4



STEP 4 テスト・立ち上げ

確認事項

テスト結果

精度

運用手順

5



STEP 5 本稼働後支援

本番後の対応

帳票追加

精度調整

問い合わせ対応

次の打ち合わせで確認したい3項目

次回打ち合わせでは、対象帳票・現在運用・連携先の3点を確認します。

01

対象帳票

種類 / 手書き比率 / 明細の有無

02

現在の運用

誰が入力し、誰が確認しているか

03

連携先

どこへ、どの形式で連携したいか

事前にあるとよいもの：帳票サンプル / 入力項目 / 連携先

■ 打ち合わせで整理できること

対応範囲

要件確認点

連携方針

テスト方針

進め方

会社概要

会社概要

レゾナンスパートナーズ株式会社

事業内容 CxO支援、ITデューデリジェンス事業、ITソリューション事業

本社 〒104-0033
東京都中央区新川1丁目3-3
グリーンオーク茅場町6F

電話番号 03-5541-6476（代）

設立 2025年6月16日

従業員数 280名（グループ合計）



代表取締役社長 田中 亮宇

東京・中野区出身。慶応大法学部卒業後、EY新日本有限責任監査法人に就職。AGSグループに転職後、公認会計士として中小企業の経営コンサルに従事。2019年5月、仕事でつながりのあった東海ビジネスサービス入社。20年8月社長に就任。外部からの経営トップ就任は同社の創業以来初。2025年に兄弟会社として、レゾナンスパートナーズを設立し、CxOサービスを開始。

まずはお気軽にご相談ください。貴社の課題に最適な支援プランをご提案いたします。



03-5541-6476



info@resonance-group.co.jp

当社のHPからもお問い合わせいただけます
<https://resonance-group.co.jp/>

